

組立説明書

電動アシスト自転車

品番 BE-EXM40

※特注車含む



BE-EXM40

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

お願い

組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店 / 代理店にて斡旋しております。



ペダルレンチ



六角棒レンチ

お知らせ

本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

標準締め付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3)N・m	{{(8~13)kgf・cm}}
M5	(3~4.5)N・m	{{(30~45)kgf・cm}}
M6	(6.5~9.5)N・m	{{(65~95)kgf・cm}}

※本文中に締め付トルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

安全上のご注意

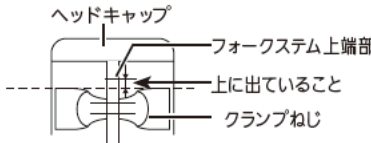
警告

けがなどを防ぐために



■はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない
(シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ)

■フロントフォークステム上端部を上側のクランプねじ(下図の点線位置)より下げない

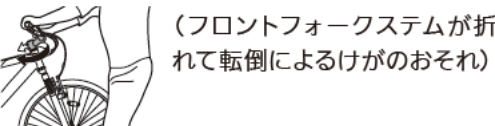


(フロントフォークステムが折れて転倒によるけがのおそれ)

■ブレーキ液はシマノ純正ミネラルオイル(シマノ# SM-DB-OIL)以外は使用しない
(ブレーキの作動不良により転倒や衝突のおそれ)



■調整後は必ず点検する



■ハンドルバー固定部は必ず増し締めを行い確実に固定する

(ハンドルバーがぐらつき転倒によるけがのおそれ)

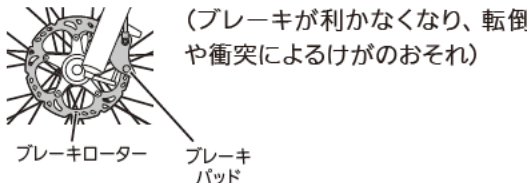
■ロックナットは確実に締め付ける

(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

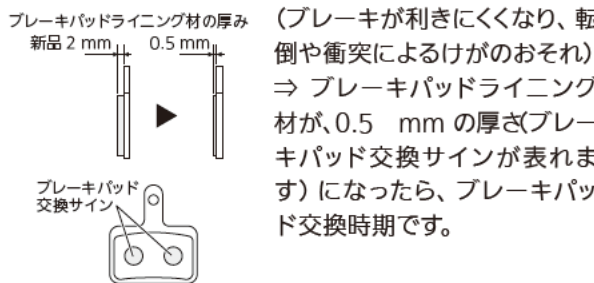
■サドル上面を水平に組み付ける

(サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

■注油禁止場所(ブレーキローター・ブレーキパッドなど)には注油しない



■ブレーキパッド交換サインが表れたら、交換する



注意

けがなどを防ぐために



■ヒゲ状のバリを取り除く

(バリによるけがのおそれ)
⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。



■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける

(組み付けないとけがのおそれ)

■六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う

(はずれてけがをするおそれ)

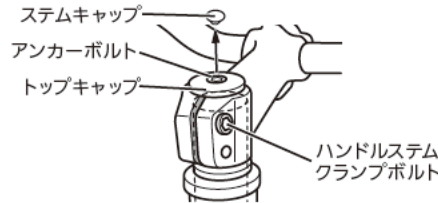
組立方法

お知らせ

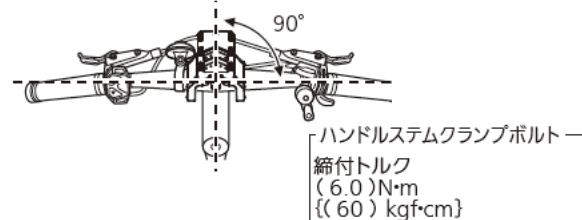
●本紙にはお客様納品時に組み付け調整が必要な部品についてのみ記載しております。シマノ製部品に関しての詳しい取扱説明書・ディーラーマニュアルは、ウェブサイト(<http://si.shimano.com>)でご確認いただきますようお願い致します。

■ハンドルバーの調整

①下図のようにハンドルステムクランプボルトを緩めます。



②ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整し、六角棒レンチで六角穴付きボルトを締め付けます。



③ヘッド小物のがたつき・回転が重いときは、ハンドルステムクランプボルトをゆるめてからアンカーボルトで調整してください。

④ヘッドの回転が適正になったら、元通りハンドルステムクランプボルトを締め付けてください。

⑤締め付け後、以下の方法で固定が十分に確認します。



前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して(150 N{15 kgf})、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。

⑥ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

■表示ユニット初期設定

○センター液晶ディスプレイの表示ユニットには、時計表示のメモリーを維持するためにコイン電池(3 V)が内蔵されています。商品出荷時は、電池の放電防止のために絶縁シートが入っています。お客様引渡し時、次の手順で絶縁シートを取り外してください。

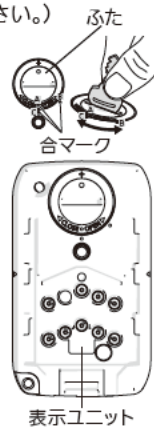
①カギなどで、表示ユニット裏面の電池収納部のふたを反時計回りに回し電池収納部を開けます。(電池収納部のふたを、合マークAが合マークBに合うところまでゆるめて開けてください。)

②電池を取り出し、マイナス(-)側についている絶縁シートを取り外します。(取り外した絶縁シートは適切に処理してください。)

③電池のプラス(+)側を上にして電池収納部に入れ、電池収納部のふたを時計回りに回します。電池を入れたら、①の反対の手順でふたを閉めてください。電池の極性(プラス(+))とマイナス(-))を逆に入れないでください。

④表示ユニットをクレードルに取り付けます。

⑤時刻を設定します。(クレードルに取り付けなしと、時刻の設定ができません。)



表示ユニット

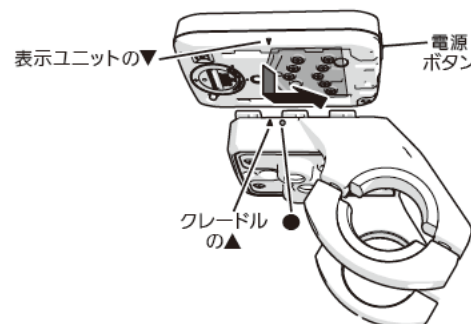
ご注意

- 電池収納部のふたがしっかりとロックされていない場合、浸水による故障などにより、正常に作動しない場合があります。
- 時計表示が“0:00”に点滅している場合、電池の寿命です。
- 電池が寿命になると、時計機能のみが停止します。(コイン型リチウム電池の寿命は連続使用約1年間です。)
- 電池の交換は、上記手順①~⑤と同じ手順です。指定の電池(コイン型リチウム電池 CR2032)をご使用ください。
- 液漏れなどにより故障の原因となりますので、使えなくなった電池は速やかに新しいものと交換してください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、お住まいの地域の条例に従って処理してください。
- 故障の原因となりますので、表示ユニットやクレードルの接続端子に濡れた手で触れたり、金属などの導電性の物を接触させないでください。

■表示ユニットの組み付け

①表示ユニットの▼とクレードルの▲を合わせ、表示ユニットの▼がクレードルの●の位置と合うまで、イラストの矢印方向にスライドさせて、クレードルに取り付けます。

②表示ユニットの電源ボタンを押し、バッテリーから表示ユニットに電力が供給され、画面が点灯することを確認してください。



裏面へ続く

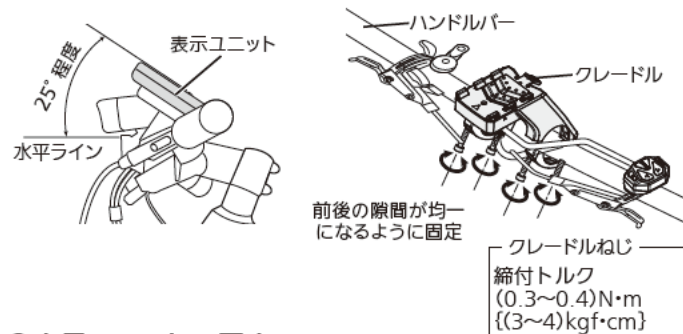
■表示ユニットの角度調整・固定

●表示ユニットの角度調整

○表示ユニットは運転者の見やすい角度(25°程度)に調整してください。クレードルのねじ(4本)を十分に緩めてから行ってください。

ご注意

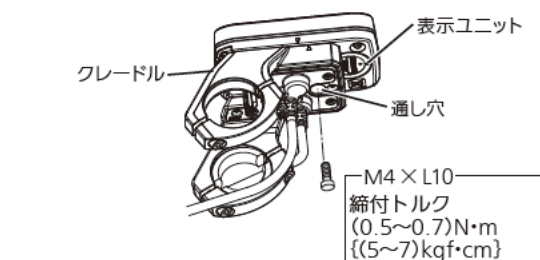
- クレードルのねじが十分に緩められていない状態で、無理に表示ユニットを角度調整すると、動作不良になる場合があります。



●表示ユニットの固定

○表示ユニットを取り外さない場合は、クレードルと表示ユニットを固定できます。

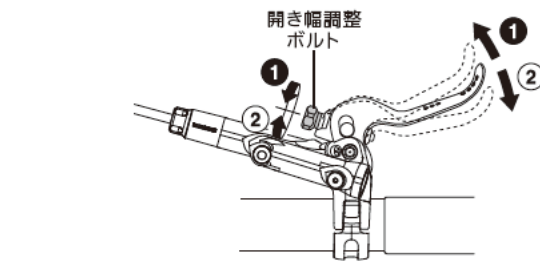
- ①クレードルに表示ユニットを取り付けます。
- ②クレードルの通し穴に止めねじ(M4 × L10)で、クレードルと表示ユニットを固定します。



■前後ブレーキの調整確認

●ブレーキレバー開き幅調整

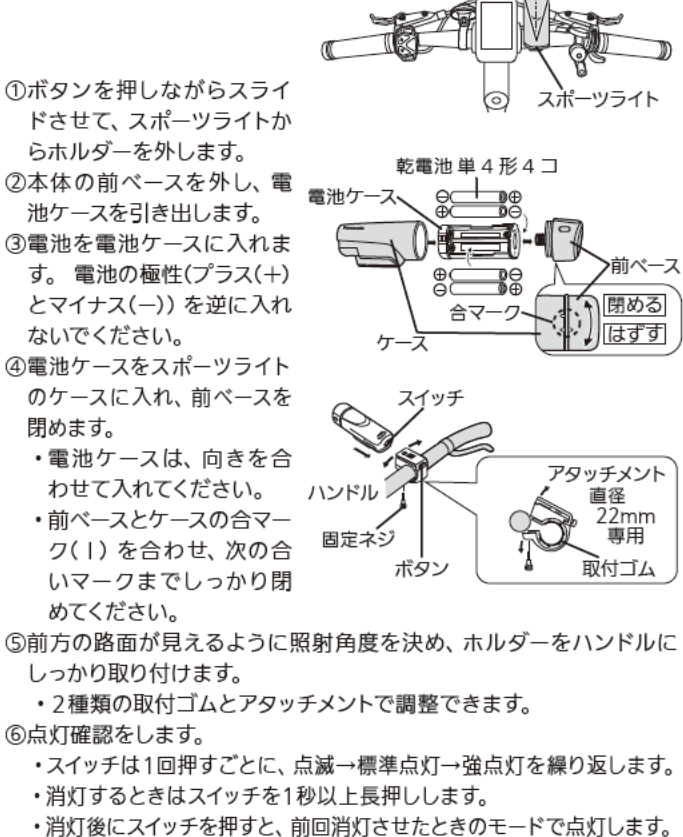
調整ボルトを締める(時計方向)とストロークが広くなり、緩める(反時計方向)と狭くなります。



■スポーツライトの組み付け

●スポーツライトの組み付け角度

○照射角度(前方の路面が見える角度)を決め固定ねじで締め付けてください。スポーツライトは左右各5°ずつ方向を変えることができます。※締め付け後、ライトに上下方向の力を加えてみて動かないか確認してください。



■サスペンションフォークの調整

●空気圧と「サグ(乗車時の初期沈み込み量)」

○サグとは、自転車に乗る人の体重(荷物などの装備も含む)やサドルに座ったときの姿勢、フレームの形状などによって、乗っただけでサスペンションに加わる圧縮力のことであり、自転車に乗って走った結果、発生するものではありません。当然、体重やサドルに座ったときの姿勢は乗り手によって異なります。従って「サグ」も乗り手の姿勢や体重によって異なり、用途や好みにより異なりますが、フォークの最大トラベル長の15%から30%程度にする必要があります。



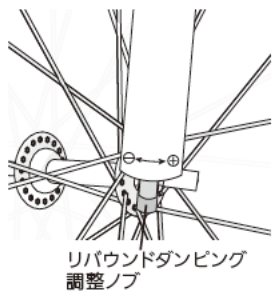
- ①バルブキャップを緩めて外し、フォーク/サスペンション用ポンプを米式バルブにねじ込んで装着します。
- ②必要な空気圧になるまでサスペンションフォークに空気を入れてください。推奨される最大空気圧を超えないようにしてください。(下表参照)
- ③フォークパイプのOリングをダストシール(一番下)まで下げてから、そっといつもの乗車姿勢で自転車にまたがって「サグ」(Oリングとダストシールの距離)を確認します。必要に応じて空気圧を調整してください。Oリングが付いていないモデルの場合、フォークパイプに結束バンドを巻くと「サグ」を正確に測定できます。「サグ」を測定する際には、自転車にじっと座っていられるようにするために壁に寄りかかってもかまいません。

乗員 + 荷物の質量 (kg)	推奨空気圧		
	kPa	kgf/cm ² (bar)	PSI
~55	280~380	2.8~3.8	40~55
55~65	380~450	3.8~4.5	55~65
65~75	450~520	4.5~5.2	65~75
75~85	520~580	5.2~5.8	75~85
85~	580~	5.8~	85~
最大空気圧	1240	12.4	180

●リバウンドダンピング調整

フロントフォーク右側下部のリバウンドダンピング調整ノブを回して、リバウンド(サスペンションの戻り)速さを調整できます。

- ・速くする
⇒調整ノブを反時計方向に回す(-側)



- ・遅くする
⇒調整ノブを時計方向に回す(+側)

●ロックアウト機構について

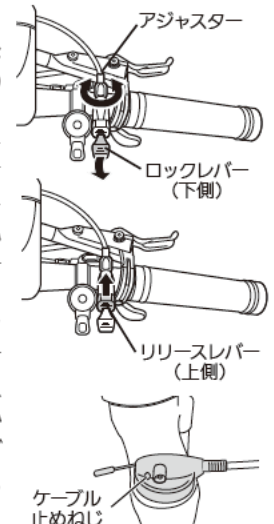
○立ち漕ぎや上り坂を上がるとき、サスペンションが沈み込まなくなる機構(ロックアウト機構)を装備しています。この機能は、ハンドル部のリモートレバーで操作できます。

お願い

- 下り坂では、ロックを解除してサスペンションが十分に作動するようにしてください。

〈フロントフォークをロックする〉

- ①ロックレバーをロックポジションになるまで押す。(ロックレバーがロックの位置で保持されます。)
- ②ハンドルを下に押してフロントフォークがロックされていることを確認する。ロックされていない場合は、ケーブルのテンション(張り)を調整する必要があります。アジャスターを反時計回りに回してケーブルを張ってください。それでも張り切らない場合は、フロントフォーク右肩のケーブル取り付け部の穴から2mm六角棒レンチを入れ、一旦ケーブル止めねじを緩めてからケーブルを張りなおしたあと、ケーブル止めねじを締め付けてください。(0.5 N・m)



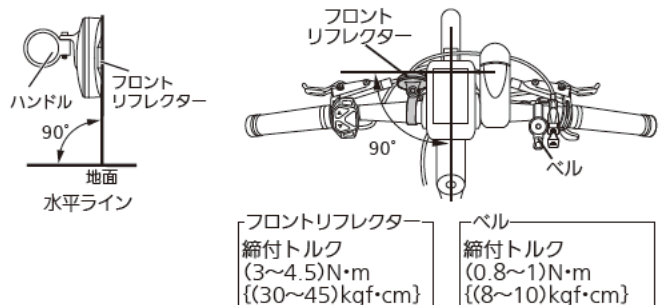
〈フロントフォークのロックを解除する〉

- ①リリースレバーを進行方向に押す。(ロックレバーがロックの位置から解除されます。)
- ②フロントフォークのロックが解除されていることを確認する。

■フロントリフレクター・ベルの角度調整・固定

※下記の点をご確認ください。

- 割れやがたつき、汚れは無いのか?
- 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているのか?

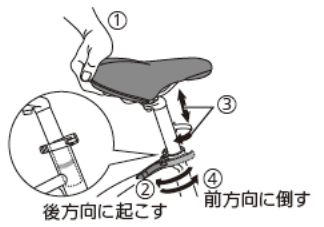


■サドルの固定

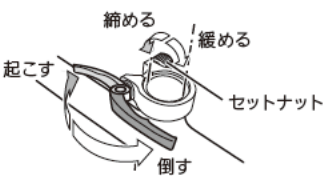
●サドル角度を調整する場合

〈サドルの高さと向きの調整〉

- ①サドルを支え持つ。
- ②カムレバーを後方向に起こす。
- ③サドルの高さと向きを調整する。
- ④カムレバーを前方向に倒す。



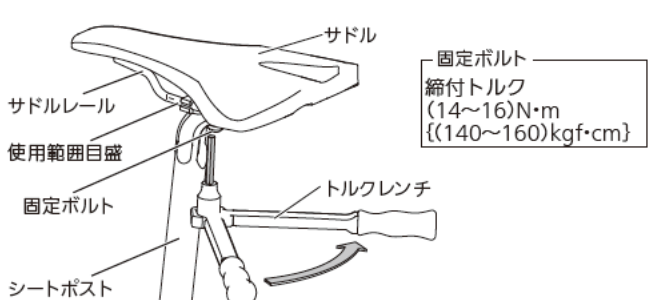
カムレバーを前方向に倒してもサドルが固定できないときは、カムレバーを後方向に起こし、セットナットを締める方向に0.5~1回転、回してください。再度、カムレバーを前方向に倒して、サドルが固定されていることを確認してください。



お願い

- カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に150 N{15 kgf}程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。
- さび付きを防止するために、シートポスト(立パイプに挿入されている部分)に、薄くグリスを塗ってください。
- サドル上面が傾いたまま使用すると、サドル固定ボルトが折れる場合があります。正しく調整してください。

●サドル角度を調整する場合



※角度調整後、下記の点をご確認ください。

- サドルがフレームと平行になっているか?
- サドルの上面と地面が平行になっているか?
- シートポストのはめ合わせ限界標識が、見えていないか?

■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク(右側)にペダル(R)のシャフトを時計方向に回し、ねじ込みます。
- ②クランク(左側)にペダル(L)のシャフトを反時計方向に回し、ねじ込みます。

ペダルのシャフト
締付トルク
(35~40)N・m
{(350~400)kgf・cm}

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

未組み付け及び要調整部品明細表

チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルステム(位置調整が必要)	1セット
	ステムキャップ(ハンドルステム用)	1
	表示ユニット(組み付け調整が必要)	各1
	ベル(位置調整が必要)	1
	スポーツライト	1
	フロントリフレクター	1
	ペダル	1セット
	ワイヤ錠	1

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2017

NYK2136 G0717-0